事業番号　0150

平成２３年行政事業レビューシート　（文部科学省）

事業名	口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境整備事業	担当部局庁	高等教育局	作成責任者
事業開始・終了（予定）年度	平成22年度	担当課室	専門教育課	専門教育課長 内藤　敏也
会計区分	一般会計	施策名	Ⅳ-1 大学などにおける教育研究の質の向上	
根拠法令（具体的な条項も記載）	－	関係する計画、通知等	「新成長戦略（平成22年6月18日閣議決定）」 「民主党マニフェスト2010」	
事業の目的（目指す姿を簡潔に。3行程度以内）	国民の健康・生活の安心を確保するため、臨床教育プログラムの開発や教育環境の整備に必要な経費を支援し、口蹄疫対策を担う産業動物獣医師等の養成強化を図る。			
事業概要（5行程度以内。別添可）	口蹄疫対策等を担う産業動物獣医師等の養成強化を図るため、下記の取組を支援。 ・産業動物診療分野や家畜感染症・人獣共通感染症等対策分野における臨床実習等の充実・強化を図るため、必要な実習用機器（大型動物用診療車、遺伝子等解析システムなど）の整備 ・産業動物診療分野や家畜感染症・人獣共通感染症等対策分野において、全国の獣医系大学の学生の実習機会の確保や、教育水準の向上を図るため、全国的な実習システムを構築（補助金：定額補助）			
実施方法	□直接実施　□業務委託等　■補助　□貸付　□その他			

予算額・執行額（単位：百万円）

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
予算の状況	当初予算	－	－	－	31	28
	補正予算	－	－	240	－	
	繰越し等	－	－	－240	240	
	計	－	－	－	271	28
執行額		－	－	※1　－		
執行率（%）		－	－	－		

成果目標及び成果実績（アウトカム）

成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値（26年度）
構築した全国的実習システムに参加する獣医系大学の割合	成果実績	－	－	－	－	100
	達成度	%	－	－	－	

活動指標及び活動実績（アウトプット）

活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
選定大学数	活動実績	件	－	－	－　※1	
	（当初見込み）		－	－	（　25　）	（　27　）

単位当たりコスト	（円／　　）	算出根拠	－ （22年度に執行額がないため算出困難）

平成23・24年度予算内訳

費　目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由
大学改革推進等補助金	30百万円	27百万円	※対象経費（補助単価）の見直しによる減
大学改革推進等補助金事務費	1百万円	1百万円	
計	31百万円	28百万円	

事業所管部局による点検			
	評 価	項　　目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	・本事業は、口蹄疫対策を担う産業動物獣医師等の養成を図るため、平成22年度に有識者等による選定委員会で25件の取組を選定したところであるが、設置準備及び設備の納期等の関係で、全ての事業を平成23年度へ繰越しして実施している。 ・経費の執行に関しては、事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行うこととしている。 ・今後、本事業により、獣医系大学の臨床実習等の整備が強化され、全獣医系大学で実習システムへの参加が期待される。		

予算監視・効率化チームの所見	
一部改善	1. 事業評価の観点 ： この事業は、獣医学教育プログラムの開発や教育環境の整備に必要な経費を支援し、口蹄疫対策を担う産業動物獣医師等の養成強化を図る事業であり、予算措置手法・実施体制の観点から評価を行う。 2. 所　　見 ： この事業は今後事業の内容を精査し、事業の効率化等に努め、予算の見直しを図るべきである。なお平成２２年度補正予算で計上された事業について、全額翌年度に繰り越しており、補正予算の趣旨に鑑み、早期執行に努めるべきである。

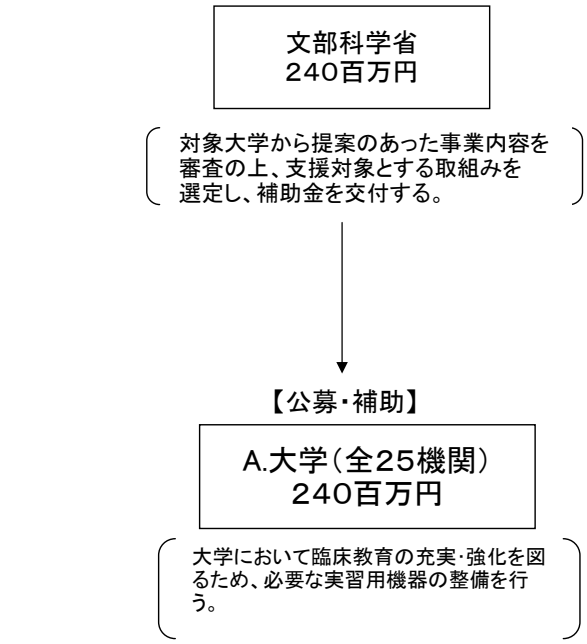
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）

事業実施にあたり、対象経費（補助単価）等を絞り込むことで積算単価を見直し、概算要求に▲3百万円反映した。
また、繰り越した予算は各大学の進捗状況を調査し、早期執行を行っている。

補記 （過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）

※1　平成22年度中に外部委員会の審査等を経て25件の取組を選定したが、23年度へ全額繰越したため、執行額及び活動実績は「－」としている。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：百万円）



※平成23年度へ全額繰越ししたため、22年度には大学等への補助は行っていない。
当該資金の流れは、平成23年度において想定される資金の流れを記載したものであり、実際の資金の流れとは異なる可能性がある。

費目・使途
（「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）

A.大学

費 目	使 途	金 額（百万円）
事業費	産業動物獣医師等の養成経費	240
計		240

E.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

B.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

F.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

C.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

G.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

D.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

H.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0